

心配された経済も無事に年を越して、房総の幹線道路の要衝となった君津にもようやく展望に明るさが見えて参りました。

近世の経済は待つものでなく、攻める経済に変わりました。折角到来したチャンスですから、攻める経済であって頂きたいものです。

商工会議所とは、こうした時に何か利益を与えてくれる組織ではなく、それぞれ皆さんの希望、要望によって活用される組織であり、皆さんのお仕事のお手伝いするための組織でありますから、是非ご遠慮なくご相談して頂きたいと願っております。

経済界の不況との闘いを展望してみますと「勝ち組」と「負け組」と分かれ、それは「攻め組」と「待ち組」の違いの差の様であります。

「待ち組」の特徴は、友人が地域内に偏っていて、孤独、保守的な影・傾向が多い。

「攻め組」は、市内外に幅広く友人があり、決断・行動力にスピードがあるようです。

友人が多く、県外に広い人脈を持っている人の方が、時代の趨勢が良く見える、いわゆる先見性が高いようであります。攻めの経営には先見性が不可欠なものであります。この先見性から決断力もスピードも生まれるものであります。

今、経済界でこうした人を育てる一つの方法として、「鞆持ちのすすめ」があります。優れた経営者の鞆持ちをさせてもらって、その経営理念・手法を学ぶことであります。

私の会社もかつて、息子や幹部社員を育てるべく、何人かを全国の優れた会社に短期留学をさせて厳しく育てて頂きました。孫もまた、来年から「味の素」へと修業奉公に5年間入社いたします。君津駅南口の大勝軒君津店主は次男ですが、池袋大勝軒に全く無給で下宿から通い、不眠不休の修業、鞆持ちをしてきました。「可愛い子には旅をさせろ」と言われます。

房総の要衝「君津」へはカインズ・ベイシア等の進出が予想されております。大店法がなくなった現在、法的にはこうした出店を防ぐことはできません。むしろこの「流に棹をさす」工夫が必要であります。

今日の不況を鑑みたとき、アメリカ的資本主義の構造的問題には、従来の経験だけでは通用せず、新しい知恵、方法をどう生みだすかが私達に課せられた課題であります。

会員の中には優れた企業・商店・人材が沢山おられます。今年はこれらの持てる力をもっと活かすためにも、交流の場を多く計画いたします。女性会も希満塾も広く門戸を開いてお待ちいたしておりますので、是非ご参加下さい。また、商工会議所には頼れる人材が沢山おります。合わせて、全国への素晴らしい人脈もあります。強大国アメリカがゲリラには弱いように、大型店にも弱点があり「価値観の多様化・ニーズの個性化」に大企業が対応し切れない部分があります。このニッチ（隙間）を埋めることができた企業が新しいビジネスでの勝利者となります。小規模事業者の活躍の場は決して少なくないはずで、自社の強みは何かを的確に把握し、その強みを生かすために、どの土俵で戦っていくべきかを明確にすることが重要であります。

こうしたお手伝いをこれからの商工会議所が取り組んでまいります。

自信と展望を持って、共に助け合っていきましょう！